

# 真・ミツオ転生

鼻水卓

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

ペルソナ4の世界に転生！と思いきやなんか色々おかしいぞ！特に俺！

元々読み専だったのでつたない文章ですがもしよかったら応援してください

・駄文注意

・作者の自己満足

# 目次

前日譚

人生（クソゲー） 1

現状把握 6

八十稲葉市探索 1

八十稲葉市探索 2

八十稲葉市探索 3

クエスト001 だいだら. の再出発

40



## 前日譚

## 人生（クソゲー）

ああ、死んだなこりや。

俺はつい先ほどまで感じていた全身の痛みと、夏だというのに冷たくなっていく体温が急に

なくなつたことに結論を出した。

ただでさえ夏真っ盛りの暑さにぐらつく頭と、朝食と昼食を食べ損ねて朦朧としていた

意識、更にあんのハゲ部長のいちいち耳につく説教。とどめにトラックの体当たりを食らう始末。今まで生きてきた中で一番の負ルコース（誤字にあらず）を受けた。

「これだから世の中はクソなんだよ、今ならあの刑事が捻くれたのも分かるな。」

もうやることのできないゲームを思い出しながら一人愚痴る。もう一周やつときゃ良かったな、

「ところで、異世界系のラノベだとそろそろ神様が出てきてもいいんだが。」

そんな気配は微塵もない。

;;; そろそろ暇になってきたな。確かに仕事中に田舎でスローライフを送りたいとは思ったことはあるけど、放置プレイは俺嫌いだぞー！

次の瞬間、見える範囲全てが暗闇だった空間に一筋の光が差し込む。転生か、転移か、天国か地獄か、はたまた魂の消滅か。

まあいい、次の人生こそ楽しく生きてやる。Let、s 転生！

;;; ;;; 待てよ？ふつうここで神様なり女神様なり出てきて、「あなたを間違って死なせてしまいました、お詫びにチート能力を授けましょう」とか言うだろコレ！

;;; まさか、まさかまさかあのトラックに轢かれて死んだのって狂った運命とか神様のうっかりでもなく、;;; ;;; ！

「天寿かよおおおおおおおおおおおおお!!!」



「えーと、おはようございます?」

次の瞬間、ナースさんがすごい勢いでナースコールを押した。

やーその後は大変だった。医者には飛んできるとし検査漬けにはなるし母親っぽいのは胸元で泣きじやくるし。

簡単な受け答えの時に「私は誰ですか?」とか聞いたら記憶喪失を疑われてまたひと悶着。その後は何とか取り繕うのが大変だった。

すっかり午前が潰れ、午後の1時を回ったあと、遅めの昼を食べた後、たまたまよつたトイレの鏡を見たその瞬間、俺は俺の名前と、一つの真実に辿り着いた。

グレーがかかった黒髪、原作より少し?せている頬、薄めの唇、泣きぼくろ、そして原作よりも遥かに曇りが薄い目にメガネをかけている。

そう、久保美津雄に転生していた。そして、  
「ここペルソナ4の世界かよ!!」

## 現状把握

ドーモ、皆々サン。まさかのゲーム内の三下、ある意味での不憫枠に転生した久保美津雄です。とりあえず挨拶から入ってみた。意味はない。まあ古事記にも挨拶は大  
事って書いてあるし（）

さて、ふざけるのはここまでにしてと。

なぜ俺が、いやなぜ久保美津雄の体が倒れていたかというと、

旅行にいったから

らしい。どうやらこいつ、中学卒業の後のちよい多い春休みの時に急に「プチ旅行に  
いく、三日ぐらい」とか言って電車に乗り込んで行ってしまったらしい。

んで三日過ぎてても帰ってこないうえ、警察に行方不明で創作届を出そうとした時に、  
こいつが意識不明で倒れていたのが見つかった。外傷は全くなく、しかし原因不明の症  
状で一時は死にかけていたらしい。道理で大騒ぎになるはずだ。



・ ・ ・ だけど、前世でも大して青春ができなかつたんだ。もう一度の人生、思いつきり充実させてやろうじゃねえか！

・ いやそれくらいのテンションじゃないと乗り切れる自信がねえー！

おつと母さん（暫定）どうしたんだ急に病室なんかきて。今ちよつとナイーブな気分なので一回不貞寝しようと思つてたんだけど。？、この写真は？

えつなにこのりせちーグッズ。俺が倒れていた所に散らばつてた？

・ ・ ・ ・ ・ （眩暈）

いやこいつが買つてない可能せおつとー限定つぼくてすごいプレミアがつきそう（小並感）な奴がちらほらと見えるなあ（白目）

ツスウー：

コイツりせちーのライブに行つてたのかよ

（絵面だけ見るとスゲー間抜けな行方不明者だな。

アツハツハツハツハツハツハツこれ学校に行った時「アイツりせちーグッズに囲まれて死

にかけてたらしいぜー」とか言われない？スゲー不名誉なんですけどそれ！

ボツチなのはいいんだよ！気楽だし！だけど笑われたくはない！

だけどもなんつーか、もったいないからなあ。

「あー母さん。」俺の部屋にぶち込んでおいてくれない？

とりあえず、封印するでしょう

# 八十稲葉市探索 1

やあやあどうも久保美津雄に憑依した一般人だ。今は高校で授業を受けてる真つ最中だ。

いやー勉強なんてマジ楽つすわー！自分、大学出てるんで高校の勉強なんてお茶の子さいさいってやつですわー！！

ンなわけねえだろ

古典めんどくさい数学やりたくない理科わかんない宿題鬱陶しい

「文系の教科」もやる、「理系の教科」もやる。両方やらなくっちゃあならないってのが「高校1年」のつらいところだな。覚悟はいいか？俺は心折れそう（泣）

前世では大学も卒業した筈なんだがなー、やはりムズイのはムズイ。転生後早速だけ

どくじけそう。

いらっしやいませー！ゴチソウサマーあ、ありがとうございましたー！

え、今何してるって？ バイト。これからの戦いに向けてお金はあって困らないだろうし。

そのバイト先だが、愛屋である。ペルソナ4ではスペシャル肉丼に挑める場所でもある。まだ厨房には立たせてもらえず、基本は配膳やテーブル拭きだけどこれがなかなか鍛えられる。

∨体力が上がった

・・・なんかいきなり脳内にテロップみたいなものが出てきたんですけど。まさかのステータス上昇効果有りかよこのバイト。ペルソナ5からだったぞその要素追加されるの。

いつか来るあの原作主人公シスコン番長に教えようか。

もしかしてSPも上がる所もあったりする？（名推理）

「しっかし、ほんと何もないこの町。バイトするか、友達と遊ぶしかないとは誰の言葉だったか。学生なら部活っていう手段もあると思うけど。」

自分で言っておいてだが、部活には入ってない。なぜなら、俺の使う武器の性能上、合  
う部活がないからだ。

俺が使おうと思っっている武器の種類は槍、いや、棒、という方が正しいだろうか。長さは槍だが、穂先がないので多分棒であつては、理由としては、携帯していてもある程度不自然じゃない事、そして俺が武器を全く扱ったことがないことの2つである。

前者の理由だが、よく子供が意味もなく棒をもって振り回しながら遊んでいるのを見たことがあるだろうか？あれの延長上で、高校生の俺が持っけていても、俺の社会的地位が少し揺るぐだけであまり気にはされないうらう。

・・・早めに長さを変えられる武器を見つければ！具体的には呪○廻戦の禪○真

希や刃〇の烈〇王が使う三節棍、とある魔術の禁〇目録の五禾口が使う海軍用船上槍などがいいかもしれない。

・・・全員ヒロイン（）の武器っていうのはとりあえず置いてだ。

後者の理由としては、槍は非常に扱いやすい部類に入る。ちょうど先日、日本史の授業で習ったのだが、豊臣秀吉が統率した碌な訓練をしていない状態の長い槍を用いた武士の軍隊が、みっちり訓練した短い槍を用いた軍隊に勝った、というものだ。

ところで今、俺は河川敷にやってきている。無論、修練のためだ。いくら扱いやすいといっても武器は武器。練習はして損はないだろう。

やはり基本の突きからだろう。ここに来る前に拾っていた竹を木に向かって構える。

∨竹 を手に入れた

武器判定に入るのかこれ。先を削れば竹やりになるんだろうか？

「とりあえず、突いてみなくちゃ分からない。習うよりかは慣れてみようか！」

ズドムツ！（木に竹を突き刺す音）

ジーーーーー（腕がしびれる音）

ゴロゴロゴロゴロ（ヌオオオオオオ!?と悶絶しながら転がる音）

ひでえ目にあつた。あれだ、慣性の法則？つてやつ？めつつつつつちや手がびりびりした（小並感）

失敗は成功の基ともいう。少し振り方を考えた方がいいか。先ほどの豊臣秀吉の話にあつた長い槍を使った武士たちに与えられた指示は3つ。突け、払え、叩け。それを踏まえて力加減も調整しつつ、

下段に一突き、すぐさま上段に一突き、そのまま上段から叩きつけ、反対の中段に移動した穂先を幹に叩きこみ、身をひるがえしながら払った穂先をまた幹に、身を後ろに引きながら返す刀（棒だけど）で幹をひっぱたく、そして肩の上に乗せるように抱えて・・・！

ズ、ドムツ!!

・・・いいね、ほとんど反動もない。これで基本の型は完成かな。

木にかけてあつたタオルで汗をぬぐっていると、

「あー！あたしの特訓場に誰がいる！まさかあたしに仕向けられた刺客？」

振り返ってみると、少し明るい茶髪に緑のジャージ、里中千枝が立っていた、という  
か警戒していた。

誰が刺客だ誰が。映画の見すぎじゃねーのか？確かにうさんくさいかもしれないけどさ。

## 八十稲葉市探索 2

タタつと軽いフットワークで助走をつけて飛び上がり、空中でクルリと一回転。そして靴底をこちらに向けた飛び蹴り。それはまさしく——

「！ ライダーk 「ドラゴンキー——ツク!!」 あつぶねエエエ!!」

すかさず竹で受け止める。蹴った張本人は竹で受け止めた時の反動エネルギーで後ろにジャンプして距離を取っている。地味に高度な事しやがる。

「とんぼがえり」をリアルで見るとは思わなかったな、10点。

うーむ、このころから綺麗な御足をされておられる、じゃなくてあれどう見てもライダーキツクだろ、でもなくて！

「いつきなり初対面の人に向けて何しやがる！」

「へっ?! あ、その・・・ご、ごめんなさい！ 人違いでした！」

「俺みたいな棒で特訓している奴がほかにいるのか!?!」

それはそれで見てみたい。

「で、だ。誰と俺を間違えたんだ？」

「最近見たカンフーの映画で、棒使って敵をバツバツ倒すシーンがあつて！」

「それが俺を襲うことと何の関係があるんだ？」

「あたしの蹴り技が通じるかどうか確かめたかったんデス・・・」

「怖いなおい！」

なんだこの戦闘民族!? やめてくださいバーサーカー

「お願い！今湧き上がってくるこのインスピレーションを試したいの！あたしの特訓に付き合って！」

「うーん急展開。さすがに君を打つのも、君に蹴られるのも嫌なんだけど・・・」

「じゃあ肉おごるから！」

「乗った！ただし今回だけな。」

うーん自分ってこんなにチョロかったけ？だがやはり肉は欲しい

「そうなるalmazはルール設定からだ。俺は棒、そして君は足を使う。お互いの得物のリーチが違うから、」

「あたしが攻撃して、君が守る。」

「まあ、そうなるな。君が俺の懐にもぐりこんだ時点で君の勝ち。俺が一定時間防ぎ続けたら俺の勝ち。これでどうだ？」

「オツケー。時間は10分でもいい？」「ああ、時間は俺のケータイで計るぞ」

「・・・なんだかんだ言って君も特訓に乗り気じゃん」

「木相手に打ち込みは飽きたんでな、ああは言つてたけどいいところに来てくれた。」

「言うねー。あたしは里中千枝。ねえ、君の名前は？」

「久保だ、久保美津雄。所属高校は八十神高校、1年だ。」

「ええ！それだつたら先輩じゃん！」

.....は？

ぜえー。はあー。ぜえー。はあー。いやあーきついつす。最後の言葉にびっくりして隙をさらしたとはいえ、あの連撃は光るものがあつた。こっちは付け焼き刃とはいえかなりリーチの差があるのに、守るのに精一杯で全く攻撃に転じることができなかつた。

かかと落として横向きに防御していた竹が折れた時なんかつい「折れたあ!？」と素でリアクションしてしまうぐらいには。

タイマー機能が10分を過ぎてから何回ギリギリを聞いたころだろうか。双剣（となつた竹を振り回し、何とか里中の攻撃を防御しきる。

そして、俺にやつと攻撃のチャンスがくる。正拳突きならぬ右の正脚突きを竹を十字に組んで受けきり、右に弾き飛ばす。体制が右に傾き、左側が空気になる。

その僅かにできた隙に左の竹を差し込む。ただし思いつきり顔に向かつてしまう。女の顔に傷がつくことの意味を思い出すがもう遅い。勢いのついた攻撃はすぐには止まらない。だってマジで命の危機を感じてるんだもん今！

しかしさすがは肉食獣、間違えた里中、普通なら顔を狙われたら後ろに下がる所を、右に傾いている、つまり背中が見えている体制から咄嗟に後ろ回し蹴りを繰り出した。俺の右側頭部に脚がうなりをあげながら迫る。しかもその時の体制が突きから顔をそらすことに成功していた。上手い。そのまま蹴られる！と思つた瞬間

「千枝！」

と、悲鳴のような甲高い声が響く。クロスカウンターみたいな体制のまま、思わず体が硬直する。脚がビツタア！って効果音が付きそうな勢いで止まる。

目だけ動かし、声の主を見る。ただ、大体予想がつく。

そこにいたのはやはり天城 Y 誰だお前?!?!

「雪子!?!」

「何やってるの千枝! 男の人と、しかも武器を持っている人と戦うなんて!!」

「で、でもあたしはこのインスピレーションを・・・」

「私は千枝のことを大切に思っているの! だから千枝に怪我してほしくない!!」

「雪子・・・」「千枝っ」「雪子っ!」「千枝っ!!」

あ、ありのまま 今起こった事を話すぜ! 「俺たちが X のような体制を取っていたと思ったら、千枝 X 雪子にハッテンしていた」な…何を言っているのかわからねーと思うが、おれも 何が起こったのかわからなかった…頭が(尊みで) どうにかなりそうだった…レズとか百合とかそんなチャチなもんじゃあ断じてねえ もっと尊いものの片鱗を味わったぜ……

というか構図がヤバイ。

これが ↓ こうなって ↓ こうなった

女 男 女 男 女 女 X 女 男

一瞬でも百合の間に挟まっていたんだ、色んな所から怒られそう(震え声)

だがその前に、

「それで、あなたは、私の、千枝に、何をしてるんですか?」

「ヒエッ」

この人の怒りを鎮めないとな・・・

背中に般若を背負いながらこちらを見る目が爛爛と光る。心なしか短い髪も逆立っているように見える。

この後滅茶苦茶説明した

「ごめんなさい！私の早とちりでした！」

「ああうんお別れにいいよ」

「デジャヴを感じる構図だ・・・」

「・・・随分あっさりと言っすんですね。」

「だって許さないと『あなたも千枝を傷物にしようと思いましたよね？』とか言っつきそうだし。」

「そんなこと・・・しませんよ。」

「そしてこの間の長さである。」

「凶星だったかー。」

「というわけで千枝に謝ってください。」

「や、というわけにはならないでしょ。もともとあたしが勝負ふつかk「里中さんマジすいませんでした」ちよつとお!」

雪子さんまじ怖えつす。相性的な要因もあるかもしれないけど。(原作基準)

「はあ、どつと疲れた・・・」

「なんか、ごめんね?色々と。」

「おう、色々と。とはいえなかなかいい経験ができた、ありがとう。」

「えへへ、こちらこそありがとう。」

「どういたしましてだ。あ、そうだ、そっちの君は何て名前なんだ?」

「え、どうして名前を教えないといけないの?」

「さすがに名の分からない人から敵意を向けられると気持ち悪いからねー。えつと、灰色さん?」

「その名前やめてくれませんか?」

「ちよ、ちよつと二人共、なんでギスギスしてるの!」

「いやー初っ端から敵意を向けられて、それを許せるほど、俺も人間できてないんでね。」

「・・・分かりました。天城雪子と申します。次は灰色とは呼ばないで下さい。」

「了解つと」

「あなた、なかなか食えない人ですね」

「そいつはどうも。里中さん、自分はそろそろ帰るからお肉はまたの機会にな。」

「う、うん。じゃあね！」

チエ、ワタシツテソソナニジミカナ。アータシカニコノママダツタライロガウスイキガスル。エ：ソツカア：。ワー!!ソソナニオチコマナイデ!ジャア、チエハドンナイロガアウトオモウ?エ!、エツト：アカ、ユキコニハアカガニアウトオモウ!

さて、と。そろそろ現実を確認しなければいけない。生前ペルソナをやりこんでいたからこそ分かった。天城雪子はペルソナ<sup>原</sup>4<sup>作</sup>では赤の申し子で大和撫子だったが、俺とさつきあつたとき、髪をばつっんにして、全く赤の部分がなかった。

そう、P3Pで追加された中学生の天城雪子だ。

そして、もう一つの証拠を見つげるために、俺は今、ジュネス建設予定地に来ている。原作にある、花村陽介が転校してきたタイミングとジュネスができたタイミングが同じと仮定すると、与えられた猶予は1年、そう思っていた。

そんなことを考えていると、いつの間にかジュネス建設予定地に到着していた。少し探すと何が建設されるか書かれた紙が目に残まる。建設予定日時は、2011年3月30日。

俺は転生後にまず、今が何年か確かめるべきだった。

ケータイに映し出される年月は、2009年4月30日。

「勘違いしていた…。俺に与えられた準備時間は、1年じゃない。2年だ」  
まさかの先輩属性を得た。

## 八十稲葉市探索 3

時刻：放課後 場所：図書室

パリリ…パリリ…と本をめくる音と鉛筆の走る音、そしてたまに誰かがこそこそと話している声としとしという雨音の四重奏が部屋に静かに響く。知識が上がった気がする。

……まあ、調べ物をするにはとてもいい環境である。

ジュネス建設予定地を訪れてから翌日、俺は少し調べ物をするために図書室を訪れている。調べているのは二つ、八十稲葉の都市伝説・・要するにマヨナカテレビについて何かないか調べている。

……と思うってたんだがなー、まっつっつっつたくない、マヨナカテレビのマの字もかすりもしない。ある程度予想はしとったけどかなり落ち込むな…。

気を取り直して。もう一つの調べ物を終わらせよう、辰巳ポートアイランドについて。

時刻：深夜 場所：家、自分の部屋

なかつたよ、ですよね。だって影時間とか最大の厄ネタ、地元でもない関係ない都市の図書室に置くわけないし。

人工島計画文書がタルタロスで手に入ることを覚えている時点で分かっただけだ。

ここでちよつと説明。ペルソナ3とペルソナ4の世界線はつながっており、主人公Sが月光館学園に修学旅行に行った時、その生徒会長だった伏見千尋が高校三年生だった。

そしてペルソナ3本編では伏見千尋は高校一年生だった。

つまり逆算的に考えると今、巖戸台でもペルソナ3原が始ま作っている。

さて、答え合わせの時間だ。只今の時間、11時59分。あと一分で影時間に入る。俺もペルソナを持って以上、影時間に入れる、というのが俺の仮説だ。

そんなことを思っていると秒針が10を過ぎる。まさしく緊張の瞬間だ。



すつぽりと頭から抜け落ちている間、その名前のとおり、<sup>1</sup>真夜中<sup>2</sup>からか。  
天気予報だと、今日は、一日中雨だ。

「え、まさか、；；、マヨナカテレビ!？」

いや、確かに諸々の条件はクリアしている。じゃあどうするか。

・・・別に反応しなくてもよくね? どうせ後々関わるんだから今無理に関わっても変わらないし、何よりも眠い。

こういうのは無視に限る。

ピ・・・ザザ・・・

「……」

ザザザザ・・・ザザ・・・

「……」

ザザザザザザザザザザザザザ!

「やかましい!鬱陶しいぞ!!」

自己主張激しすぎんだろこのテレビ!かまってちゃんか!

…このまま終わったアナログ放送みたく砂嵐を発生し続けられても眠れねえ、見るだ

け見てみよう。

俺はメガネもかけずにテレビを見ようとした。どうせ1分か2分そこらで終わるだろうし。

ここで不運だったのは俺がムカついて勢い良く起き上がってしまったことだ。どうなったかって？ 起立性低血圧を発症・要するに立ちくらみがおこった。

「うっ……」(グラツ)

そして、

ちゃぼん

「……ちゃぼん? ……なっ!？」

視界がクリアになると同時に、俺は俺がどうなっているかを知り、そして驚愕した。テレビの中に頭どころか腰までずっぷり浸かりながら、不思議な空間に身を乗り出しそうになっている姿。

そしてその体制では踏ん張ることもままならず、俺はテレビの中にその身を投じた。

(こういう落ちていく状況ってやっぱ叫んだ方がいいんだらうか?)

…我ながらこんな思考でいいんだらうか?

ドカツ

「イテッ」

背中になかなかの衝撃が走り、フリーフォールからやつと解放された。

のそりと起き上がるとやはり、黒と赤が縞々になった空が広がる異様な世界が存在していた。

「空が青くないというのは、思った以上に気持ち悪いもんだ。」

周りを見回すと、ちょうど商店街の南側に位置する場所だらうか? クマが来るまでは帰れねえし、ペルソナの試運転でもしとくかな・・・

うん?

クマが来るまで帰れない

クマが来るまで帰れない

：詰んだ？もうこれ詰んじやった？真・ミツ才転生完!?

いやこんなあつけなく終わらせねえ、できることは何でも試さねえと！

そうなるはずは、せつかくテレビの中に来たんだし、やることは一つ！

手のひらを開き、前に手を伸ばす。伸ばした先に浮遊してきた青く光るカードを手に収め、思い切り握りしめて叫ぶ

「ペルソナー！」

でてこい俺の半身！「オニキリ！」

ゴウと突風が吹いた後、俺のペルソナーが現れていた。その姿は一言で言い表すと紫のオーラをまとった無貌の鎧武者。色んな所がボロボロで、黒い鎧の下が何も無いことから、甲冑のリビングアーマーってことになるのだろうか。明らかに闇属性を扱いそうだ。

そして何よりも目を引くのがその武器、八角錐からとがっている所を切り落としたような黒く巨大な鞘、そこにさしてある：刀？たぶん大太刀と表せるような刀が差してあ

る。ペルソナを操作して抜かせて見ると、青白く光る刀身が姿を現した。

そしてなぜか鍔が正三角形であり、その一角が刃と同じ向きをしている。

おっとお？なんかクソデカ鞘の側面に「物」「火」「氷」「風」「雷」「闇」「光」「万」の漢字が彫られとりますなあ。∴全属性使いとか、一気になろう感が増してきちゃったなあ。

抜いたままだった刀を鞘に戻す。今は刀身が「物」に向いている∴なるほど、鍔の一角が今の属性を表しているのか、ということとは

ガチャリと柄をダイヤルのように回して「火」に合わせると鞘の側面の長辺から一瞬間炎が噴き出す。

そのまま刀身を抜くとあら不思議、刀が炎を纏ってるじゃありませんか。

他の属性も同じように属性も同じような反応だったが、「物」だけは何も起こらず。

俺が「万」を試そうと鍔を合わせた時、その反応は起こった。

鍔を「万」に向け、力を使おうとした途端鞘が展開し、少しだけ覗いた内側から光が溢れ出す。

明らかに何かマズイ。

キャンセルする術も分からない、が、こういうのは力をどつかに吐き出させるのがい

い、とりあえず刀身を抜い

ドツツツグオオオオオオオオオオン!!!

——暴発するなんて、俺、聞いてない——

べしやつと体の表面全体に痛い。・・・どうやらベクトル的に上に吹っ飛ばされたよ  
うだ痛い。デジャヴ？いやテレビから落ちた時以上だ痛い。

万能属性は抜刀するんじゃないやなくてあの馬鹿でかい鞆に入ったまま叩きつけるのが使  
用方法かな・・・

このままじやみつともなさすぎなので、とりあえずのそりと顔だけ上げる・・・うわあ  
地面も一部がえぐられてる。

さつきの爆発音に引き付けられたのか、シャドウがちらほら見える。とつさに物陰に  
隠れたが、どうしよう。さつきの爆発でクマも気づいたと思うが、シャドウがいる以上  
こちらには来れないだろう。そして俺が帰るテレビはこちら側。俺ん家のテレビとパ

スを繋げないといけないので、何としてもシャドウを追い払わないとな・・・

何はともあれ武器だ、ペルソナだけではいつかは精神力がつきる。

：．．なんか天啓がきた気がする。俺のペルソナが使える闇の力（こう書くと中二病っぽいな）を変形させて武器にできないだろうか？

普段ならこんな事は考えないだろう。しかし、今の時間帯は深夜だ。今の俺は情緒がちよつとアレなことになっている。要するに

深<sup>最ッ高に</sup>夜<sup>『ハイ』</sup> テン シ ヨ ン 突 入

よーしまずは材料からだ。必要なもの：闇（適量）。俺のペルソナの元々の力なのか、闇属性は刀の属性を変えなくても使えるらしい。そんなことはどうでもいい。

今、俺に天啓がきた気がする、まな板にしようぜ！

はいこねてー延ばしてー畳んでー・・・かなりまな板だよこれ！

感触的には堅めの下敷きっぽい？べっこんべっこんしてる。

次だ次い！面ができるなら線だな。

はい伸ばしてー伸ばしてーまた伸ばしてー・・・おお、糸になった。

・・・はっ、俺は一体何を？どうやら狂気（？）に？まれてしまったようだ。

だが意外に面も糸もやり方次第では使えるかもしれない。

ストリングアーツ！

・・・いかん、まだ正気に戻ってないな。

落ちてきてからよくよくシャドウを観察してみると・・・いまいち名前は覚えてないが、ありやツインズか。

・・・あの棒引き？がせば武器になるんじゃないやね？糸と板単体だけだといまいち武器にならないからな

はい、抜き足、差し足、忍び足、かーらーのー

アバイテヤル！ ガシツ メリメリメリミチ・・・ブチツ！

▽ツインズの棒 を 手に入れた ！

もちろん残骸(○)はムドリました。ムドつても素材つて残るんだね。

そしてわらわらと集まってくるシャドウ達。・・・生きたまま一部を剥いだから、そ

りや絶叫するし、その声に気づかない訳ないよね。

さて、一掃するか。俺の経験値となれ！

かなり、苦戦した。あの爆発音がかなりでかかったらしく、連戦に次ぐ連戦で体力も精神力もボロボロだ。ペルソナ自体は動きはそこそこのいいものの、鞘が馬鹿でかいのでペルソナが動いて避けれずに攻撃を受けることが多い。

だけど、かなり収穫はあった。だいたいレベルも上がったし、何よりも

「だ、だいたいどうぶクマ?」

出 口 ゲ ッ ト

「まあ、ギリギリだけど大丈夫だ。ところで、君は誰だ? (まあ、知ってるけど)」

「クマは、クマクマ!」

「そうかクマか、いい名前だ。」

「あ、ありがとうクマ!」

「俺は久保美津雄。呼び方は何でもいぞ。」

「それじゃミツチークマね！」

ミツチーク、いいセンスだ。

よし、つかみはバツチリ。最初は警戒されていたが、一気に懐く寸前までいったな。

「俺、なんかテレビから落ちてきたみたいなんだけど、どつか出口知らない？」

「出口？そんなの知らないクマ」

・・・あるえ？

「じゃ、じゃあ、出口を作る手段とかも、」

「ないクマね」

Oh::なんてこつたい。詰んだ？これ詰んだ？

「ねえねえテレビって何クマ？」

「ああーえつと、四角い箱に一部だけ液晶つていう透明な部分がある電気製品のことだが」

あーやつべ最後の希望が潰えた・・・もう野垂れ死ぬしか「それってこんな感じのものクマ？」ないの、か・・・？

自ずとorzの体勢になりながらもクマの声に顔を上げると、そこにはまさしくあの赤いテレビが一つあり、その液晶にはおぼろげながら自分の部屋が見えた。

・・・何はともあれ、一応帰れそうだ。

「それにしても、なんでいきなりそんな力が使えたんだ？」

「クマ、こんな力あるとは思わなかったクマ。ミッチーが教えてくれたものを作ったらなんかこうなって通じたクマ。クマ、こういう頭つかうこと得意なの、エッヘン、クマ。」

「いや、かなり助かった。ありがとう。」

俺はむふーっと胸をそらせているクマにお礼を言つて、テレビの中に入った。

ガンツ

「あ、帰れるテレビがまだ遠いから出てるテレビも1個なの、もうちよつと近づいて3個になつたら完全に入れるみたいクマよ。」

「もうちよい先に言つてくれないかなあ。」

あと、このテレビの数ってケータイとかのアンテナみたいなものだったのね

## クエスト001 だいだら.の再出発

「頼むーその素材を譲ってくれねえか!!」

展開急すぎて草あー。じゃねえわ、なしてこうなった。

いやーひどい目にあつたのはテレビの中だけだと思つたら違つたらしい、結局深夜を越えて、テレビの中から帰つたときは早朝になりかけていて二時間ぐらいしか寝れなかつた。

おかげで寝不足、さらにえげつないほど体を動かしたから全身がガツタガタ。  
おつかしーなー、この体16ぐらいのピッチピチ○なはずなんだが

すげー眠いはずなんだけど、体に走る痛みがそれを許してくれない。

幸い今日は土曜日、午前だけの授業だけだ。はあ、土日休みになるのはもうちよつと後の時代か、本心ではものすつごく休みt

グキツ

アー！ イツタイセガアッ アッ アー！ー！？

オデノカラダハボドボドダ！

夕方、悶絶しながらもやってきたのは дай だら。昨日倒しまくったシャドウの素材をそのままにしておくのもあれだし、お金になるんじゃないかと思ひ、家からここまで引つ張つてきた。

うか  
・・・重い。主に体と素材が。何でこんな時に限って時間割に体育が入ってるんだろ

「で、俺の記憶が正しければここだよな？」

店先においてある鎧と看板が特徴の、見間違える方が難しい店の、はずなんだ、が。  
・・・なんかすごい負のオーラを纏ってらっしゃる。店が。

まあ単純に明かりがついてないだけなんだが、今は夕方、開いてもおかしくないんだが。

店の扉は開け放たれているから一応やってるらしい。入ってみるか、素材を売らなきゃまた持つて帰ることになるからな、せめて買取だけでもしてほしいけど

店に入った瞬間、俺を待ち構えていたのはS A N値チエツクだった。

大げさだと言われるかもしれないが、中に入った途端、店に負けない、いやむしろ勝る勢いの負のオーラを身に纏った強面の店主を見たら誰でもこうなろう。

お　う　ち　か　え　り　た　い

失敗してんじゃねえか（持ち直した）

「あの一……」

恐る恐る店主に話しかける。

「……いらつしやい」

よかつた生きてた。

「このお店って、買い取りってます？」

「いや、悪いがやつてねえ。大荷物抱えてきたあんたには悪いが、売るなら別のところで売ってくれないか、うちにはもう、引き取るだけの金もねえ。」

うわ重つもお。すつごい現実的な問題を出してきやがった。ここゲーム？の世界なのに。

「い、いや頼みますよ！お金とかいららないんで、こういう素材とか処分してくれませんか！？」

「冷やかしなら結構だぜあんた、そういうのはゴミにでも

……おいちよつと待て、そのリュックから覗いてるそれ、見せてみな。」

「これっすか？ちよつと待ってつと、う、うおわ！」

アシクビヲクジキマシター！あーあーあーやつちやつたよ、リュツクの中身を盛大にぶちまけちやつた。

「す、すみません！すぐ片づけますんで！」

そういつて床に散らばったシャドウの素材をかき集めようとした時

「頼む！その素材を譲ってくれねえか!!」

クエスト001 だいだら、の再出発

そしてタイトル通り、こうなったわけだ。まさに手のひらドリル、いい回転だ。

「いやいや、さつきは無理だつて」

「それはすまんかった！そりや普通のガラクタだと思っていたから、だけどここにある素材は全部俺の見たことがねえ。こんなにあーと心をくすぐられたのは久しぶりだ

ぜ・・・！」

なんということでしょうー〇

さつきまでの暗澹とした雰囲気は何処へ、俺の目の前には目をギラギラと燃やした親方がいるではありませんかー(棒)

正直、お金は今どうでもいい。問題なのはこのままいだら、が原作まで持たない可能性がある。

ここで俺が素材を譲らないのは勝手だ。けど、そうなった場合、誰に皺寄せがくると思う？

番長だ。

まあ、そんなこんなで素材を譲ることになった。

「素材の一部には武器以外の普通の生活用品に転じれるものもあるからな、これならまだ店を立て直せる商品を作って稼げる．．．！」

．．．店の方から黒い欲望が漏れ出ていた気がするけどまあ情けは人の為ならずだな！ヨシ！

しかしクエスト001か、絶対まだ他にもいるよね！荷物の重さに意識を取られてたから気付けなかったけど。

報酬は．．．まあ今はいいか、未来への投資ってことで